教育課題研究

児童生徒の自立と社会参加を目指した教育の在り方

～「子どもが学ぶ・教師が学ぶ」共に学びをひろげる授業づくりを目指して～

（2020－2021 年度）

研究のまとめ

2021 年 3 月

宮崎県立みやざき中央支援学校

目　次

ページ

学校長メッセージ

Ⅰ　研究主題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　主題設定の理由　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

Ⅲ　研究の仮説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅳ　研究の内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅴ　研究の組織　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅵ　研究の方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

Ⅶ　研究の計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

Ⅷ　研究の実際

1　高等部Ⅲ課程検証班　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-30

2　高等部作業学習研究班　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31-53

3　キャリア教育研究班　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　54

4　保健体育科研究班　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　55

5　プログラミング教育研究班　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　56-57

6　小学部研究班

（1）　年間指導計画見直し班　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　58-59

（2）　音楽年計・教材作成班　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　60-61

7　個人研究班　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　62-64

8　寄宿舎研究班　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　65-67

Ⅸ　研究のまとめと今後の展望　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　68-69

は　じ　め　に

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大が続く中、かつてないほどの影響を受け、様々な教育活動が中止となる中で研究を進めることになりました。そのため、日頃行っている実践も大きく制限を受け、研修の機会も減少したことから、実施可能な研修体制を試行錯誤しながら校内研修を進めてきました。

今年度の研究主題は、「児童生徒の自立と社会参加を目指した教育の在り方～『子どもが学ぶ・教師が学ぶ』共に学びをひろげる授業づくりを目指して～」とし、研究班を「重点研究プロジェクトチーム」と「テーマ別研究チーム」の２つに分け、前者では、「高等部III課程研究班」による「職業コースに向けた研究」、後者では「企業と連携した作業学習の改善に係る研究」を行いました。

また、「テーマ別研究チーム」では、「キャリア教育研究班」「保健体育研究班」「プログラミング教育研究班」「小学部教育課程検証班」に分かれての研究を深めたほか、「個人研究班」として、個人や小グループで小学部１８テーマ、中学部２７テーマ、高等部１９テーマの身近な実践を取り上げた研究が行われました。個人研究では「ボタンはめ外し動作の向上に向けての指導の工夫」「合同音楽の授業での重複学級生徒の参加・活動について～教具の工夫を通して」「アンガーマネジメントを用いた感情コントロールの習得」など、多彩で実際的なテーマが取り上げられての研究でした。

これから迎えるであろうアフターコロナ、ポストコロナの時代は、世界的に大きな転換期を迎えると言われています。新学習指導要領が目指しているところも、そうした様々な予測しがたい時代の変化に対応できるよう、自ら考え、自ら課題解決しようとする子供たちの育成にあります。そのためには、まず私たち大人が、自ら考え、課題解決しながら教育実践を行う必要があります。その点で、今回の多彩な研究の取組は、それに呼応したものであったと思います。

私たちが抱える日常的な実践上の課題は複雑で様々ですが、研究によって課題を分析しながら指導の在り方を工夫することによって、必ず何らかの成果を得ることができると思います。今回、これだけの研究に取り組めたことは、まさにその成果を示すものだと思います。今回の研究を取りまとめた研究部長を中心に、研究部、各研究班のリーダー、すべての研究に関わった全職員の努力を讃えたいと思います。今後とも、互いに切磋琢磨し合うことで実践力を高められるよう、さらに研究、研修が充実できればと思います。

結びに、研究にご指導、ご支援をいただいた関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和３年３月

宮崎県立みやざき中央支援学校
校　長　　酒　井　裕　市

Ⅰ　研究主題

「児童生徒の自立と社会参加を目指した教育の在り方

～『子どもが学ぶ・教師が学ぶ』共に学びをひろげる授業づくりを目指して～」

Ⅱ　主題設定の理由

本校では、平成 30 年度から令和元年度の２カ年に渡り、改定された学習指導要領に掲げられている「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の考え方を受けた研究主題を設定して研究に取り組んだ。児童生徒の「主体的に学ぶ力」を育てるために、全体研究主題に基づいて各研究班が抱える課題やニーズに応じた研究テーマを設定し、日々の授業実践につながる研究に取り組んだ。その結果、「児童生徒一人一人の主体的な学びとは何か」を捉えながら授業の実施及び指導の改善・充実を図ることで様々な支援の在り方や指導方法の工夫を導き出すことができた。

本校の教育目標は、「自立と社会参加を目指して、自ら学び、心豊かでたくましく生きる児童生徒の育成」である。児童生徒が将来社会の一員として積極的に社会参加・自立していくことを願い、「共に生きる力」を培うことを本校教育の基本理念として掲げている。本校に在籍している児童生徒の知的障がいの程度や発達段階等には個人差が大きく、また障がいも多様化してきており、一人一人の学びも様々である。このように児童生徒の多様な学びに対応するためには、学校教育目標の具現化に向けて編成された教育課程の検証や授業の改善・充実を図るＰＤＣＡサイクルを重視した授業づくりが重要になると考える。改訂された学習指導要領には「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」「何が身に付いたか」「実施するために何が必要か」という６つの点の枠組みを改善するとともに、各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことが求められていることが記されている。このような学習指導要領の改訂を踏まえ、児童生徒の自立と社会参加に向けてよりよい教育課程の編成を目指すことと、これまでの授業の質を一層高めながら児童生徒の学びを広げ、一人一人の生活に必要な資質・能力を育成するために、私達教職員の専門性や児童生徒の多様な学びに対応できる授業実践力を高めることの２つの視点で本校の教育課題を整理していくことにした。

そこで今年度は、宮崎県教育委員会推進事業の一環として昨年度から研究に取り組んでいる研究班を「重点研究プロジェクトチーム」と位置付け、本校の高等部「職業コース」設置に向けた取組や作業学習を推進する研究チームと、研究班ごとのテーマに沿って研究に取り組む「テーマ別研究チーム」の２つのチームを編制することにした。後者の研究チームには、個々の教職員が児童生徒の実態や自己の授業実践上の課題からテーマを設定して取り組む「個人研究」という近年にはない新しい研究スタイルを含むことにした。このことによって、研究そのものに対する受動的な意識を少しでも主体的な意識へと変え、そして能動的に自己の課題と向き合って教職員が主体的に学ぼうとすることができるのではないかと考えた。児童生徒一人一人の主体的に学ぶ力を高めるためにも、教師自身が学ぶ意欲をもちながら研修・研鑽に励み、そしてそのことが日々の授業実践の充実につながっていってほしいと願い、本研究主題を設定した。

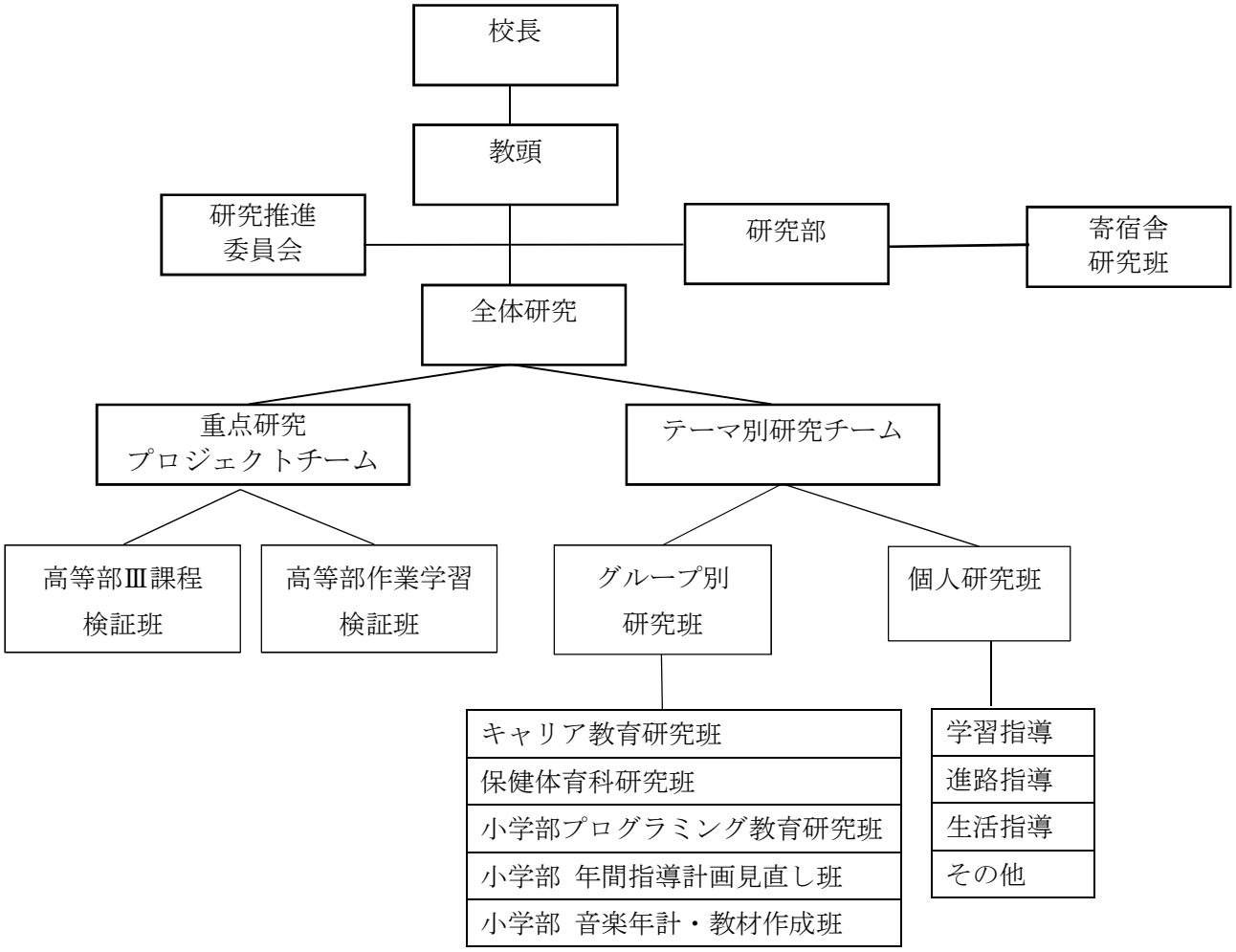
Ⅲ　研究の仮説

各研究チームの取組において、児童生徒の実態や授業実践上の課題からテーマを設定して研究に取り組んだり、新しい視点を取り入れた教育課程の検証を行ったりすれば、より一層児童生徒の自立と社会参加を目指したと授業づくりが実現すると同時に、教職員の主体的な学びを促し資質の向上にもつながるのではないか。

Ⅳ　研究の内容

「重点研究プロジェクトチーム」と「テーマ別研究チーム」に分かれて、学校教育目標の具現化に向けた「授業づくり」に焦点を当て、改訂された学習指導要領に基づいた教育課程の検証や指導計画等の見直し、障がいの特性に応じた指導・支援の工夫等について評価・改善を図りながら授業実践の充実を目指した。

Ⅴ　研究の組織



今年度から寄宿舎の研究については、寄宿舎独自の研究主題を設定して取り組むことにした。

ただし、全体研究会や研究推進委員会への出会は、従来どおりとし、学校と寄宿舎との連携や情報の共有に努めることにした。

Ⅵ　研究の方法

研究組織を上記のように編制し、それぞれの研究班において課題になっていることの洗い出しや、課題を解決する具体的な取組について検討した。そして、課題解決に向けた授業実践や検証、協議等をとおして評価・改善を行っていった。

（１）全体研究会

５月に実施した全体研究会は、新型コロナウイルス感染症対策として会場を分散してリモートによる全体説明会を実施した。今年度の研究についての概要説明や年間計画の確認を行った。

今回、新しい研究スタイルとして「個人研究班」を立ち上げたことにより、個人で研究を進めるに当たって「個人研究に関するQ&A」を取り上げ、研究の進め方等についての説明を行った。その主な内容としては、①テーマ設定の仕方について　②研究の進め方について　③個人で研究を進めていく中で生じた悩み等への対応について　である。説明の内容について以下に簡単に述べる。

<u>①　テーマ設定について</u>

今回は「学習指導」「進路指導」「生活指導」「その他」の４つのカテゴリーでテーマを設定するようにし、４つのカテゴリーの参考テーマ一覧を作成し提示した。

<u>②　研究の進め方について</u>

研究の核となる「課題の発見（テーマ決定）」をどのようなプロセスで行うのかという最初の取りかかりから「考察及び研究のまとめ」に至る教育課題研究の進め方について資料を基に説明をした。また、研究の取組例をいくつか紹介し、研究をどのように進めていけばよいのかイメージできるように工夫しながら職員への説明を行った。

<u>③　個人で研究を進めていく中で生じた悩み等への対応について</u>

個人研究は、グループ別研究とは違って個人で取り組むため、相談したり、協議したりする場がないことから、別途「個人研究相談会」の場を設定するようにした。この相談会には、研究部員のみならず本校の指導教諭にも助言者として参加してもらうようにした。

各研究班の１年間の取組の報告会については、グループ研究班はリモートによる分散型で行い、個人研究班については小グループに分かれての報告会を実施した。

（２）班別研究について

それぞれの研究班でテーマ設定や研究の方法、研究計画等を立てて研究に取り組んだ。

必要に応じて研究内容に関する全職員への共通理解を図るための全体研修会を実施した。

Ⅶ　研究の計画

（１）研究の期間

本研究は、令和２年度の１カ年で取り組んだ。

（２）研究の計画

以下の表１の通りに、今年度の研究を進めていった。

表１　　令和２年度　研究に係る計画

回	日付	時間	内容	備考
	4/7(月)		*研究推進委員会①*	
1	4/20(月)	35	研究担当者会	
2、3	5/22(金)	90	全体研究（今年度の研究について）	
4	5/29(金)	45	チーム別研究（研究テーマ、内容、計画等の決定）	
5	6/18(木)	35	チーム別研究	
6	6/24(水)	35	チーム別研究	
7	7/3(金)	45	チーム別研究	テーマ提出
8	7/10(金)	45	チーム別研究	
9	7/30(火)	50	学部研究（キャリア教育研究班による学部研究）	
10	8/6(木)	50	チーム別研究	
11	8/7(金)	50	チーム別研究	
12	8/17(月)	50	チーム別研究	
13	8/25(火)	50	チーム別研究	
14	8/27(木)	50	チーム別研究	
	8/28(水)		*研究推進委員会②*	進捗確認等
15	9/2(水)	35	チーム別研究	
16	9/8(火)	35	中間報告会（進捗確認等）	
17	9/17(木)	35	チーム別研究	
18	9/29(火)	35	チーム別研究	
19	10/13(火)	35	チーム別研究	
20	11/5(木)	35	チーム別研究	教科領域総合訪問（小）
21	11/13(金)	45	チーム別研究	
22	11/24(火)	35	チーム別研究	
23	1/6(水)	50	チーム別研究	
24	1/20(火)	35	チーム別研究（「研究のまとめ）レポート作成）	
25	1/29(金)	45	チーム別研究（「研究のまとめ」レポート作成）	
26,27	2/12(金)	90	報告会（研究のまとめの発表）	レポート提出
	3/17(水)		*研究推進委員会③*	次年度に向けての方向性等